月曜朝会の話２月③H280215

# 『最後にどんな目をいれるか・・・。』

「立春を過ぎとても温かくなってきました。風邪をひかないように気をつけて、最後の仕上げをしましょう。それでは元気に朝の挨拶をしましょう。お早うございます。」（おはようございまぁす。）

まだちょっと寒いですが、校庭での月曜朝会は気持ちがいいですね。

さて、今６年生の代表のお兄さんの班誌にもあったように、まだまだ寒さ厳しい毎日ですが、それでも校庭の桃の木や梅の木、桜の木々の芽もふくらんで、春の兆しを感じる今日この頃。天気予報で昨日「東京地方にも春一番が記録されました」と言っていました。

「春一番」とは何でしょう。

先週にもお話しましたが、日本のまわりは、これまで冬の間、北からの寒うい北風がぴゅうぴゅう吹いて、北風小僧のかんたろうのように、毎日毎日寒い日が続いていました。

でも、だんだんと辺りが温かくなって、春が近づいてくると、北から吹いていた風が東の風に変わり、そして、春のかぜ、南からの温かい風に変わるのです。そして、「そろそろ春ですよ」という春の空気で囲まれ始め、南からの温かい風が強く日本に吹いてくる。この南風第一号を『春一番』といます。

時には嵐のように激しい風が吹いて木が倒れたり、倉庫の屋根が飛ばされたりして、大変な時もあります。ほこりを巻き上げ強い南風が吹いて、「春一番」が春の来たのを知らせます。その『春一番』の吹いた後の青空が今日はとてもきれいです。

そう、もうすぐ春、今の一年間ももうすぐ終わりです。

この一年の間に１年生も２年生も、３年生も４年生も、５年生も５年生らしく、そして６年生は最上級生として立派になりました。

前に、１月行く月、２月、逃げる月、３月去る月というとおり、年が明けてからあっという間にもうふた月が過ぎようとしています。

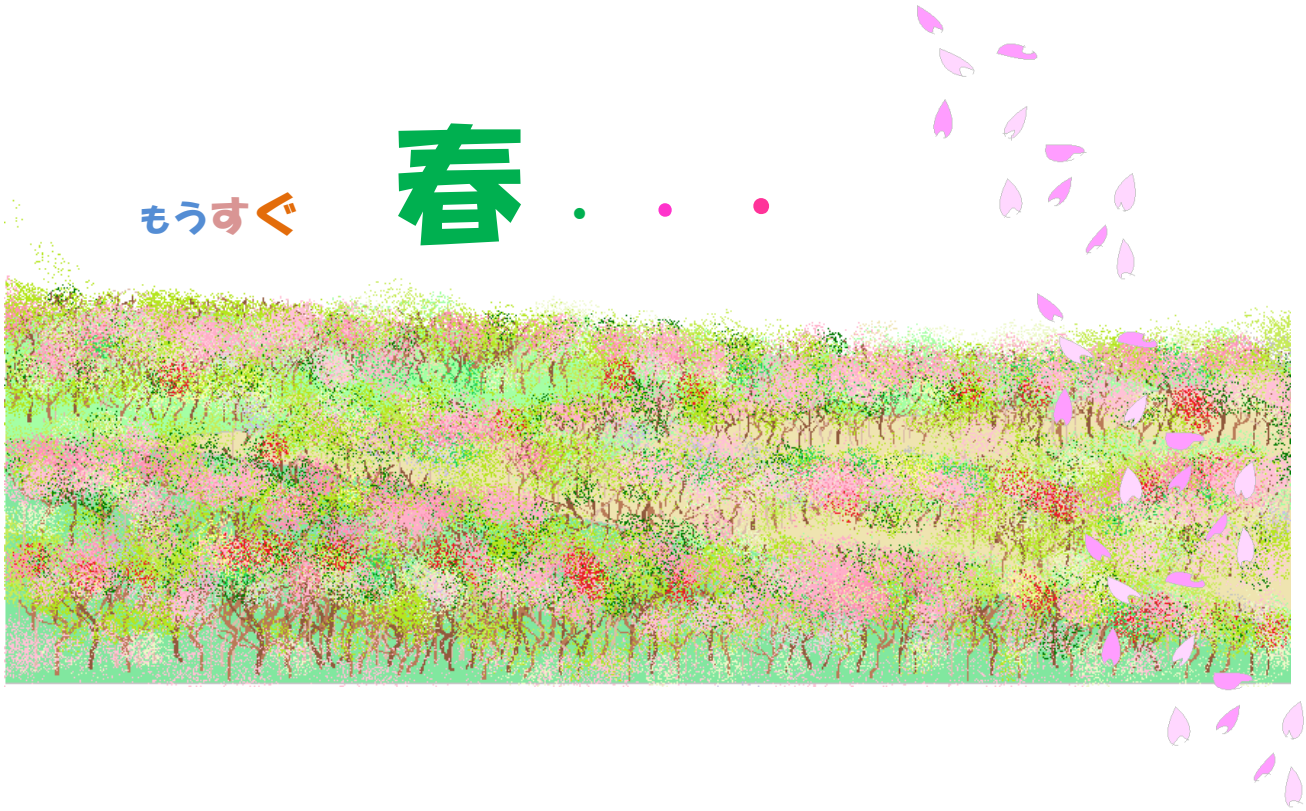
もうすぐ、みんな今の学年を終えて、１年生は２年生に２年生は３年生に、４年生も５年生も１年進級です。そして、６年生はいよいよ中学生に近づいてきましたね。

そこで、今日は、１年の終わりの話、「最後にどんな目を入れるか。」という話をします。

お店に行くと、お正月の曲はとっくに終わっていて、節分も終わり、もう３月のお雛さま、桃の節句の曲が流れ、たくさんのお内裏様やお雛さまが、色とりどりに並んでいます。

テレビでも、桃の節句に向けて、お雛さまづくりに追われる雛人形の産地の様子をニュースで流していました。

その時に、心に残る場面がありました。それが、「最後に心をこめて目を入れる」という話です。ニュースではたくさんの人の手でだんだんにおひな様が作られていく様子が映像で流されていました。半年から１年くらいの時間をかけていろいろなおひな様が多くの人の手をで作られていきます。体をつくる人、手足を作る人、着物を作る人。そして、作った着物を着せる人。頭を作る人、その頭に髪の毛を植える人、その髪の毛をきれいに結って冠をつける人。そして、体と手足と頭を組み立てる人。と、さまざまな工程を多くの人

の手を経て人形が完成に近づき、最後に顔を仕上げる職人さんに人形がわたります。
　そして、そのなかでも最後の仕上げの、「目」を入れる作業の場面での職人さんの言葉「最後にどんな目を入れるか」が印象に残ったのでお話しします。
「体もでき、着物も着せて、きれいな顔に仕上がって、あとは目を入れるだけ。
　さて、この時が一番気を使う。手の動きひとつで、これまでのたくさんの人の努力や仕事の値打ちが決まってしまう。
　単純な仕事だけれども手の震える思いだ。でもそれでは、目が入らない、仕上がらないので心を落ち着け、これまでの経験を生かし、素直な気持ちで最後の最後に一気に目を入れる。
この時、心に迷いがあるとだいなしになる。たくさんの人間が半年も時間をかけて作った仕事が全部無駄になってしまう。だから、心を込め、気を落ち着けて、そして一気に目を入れる。最後にどんな目を入れるかということが、その人形に命を吹き込めるかどうかを決めるのです。」

　このように、「最後の仕上げ」が、たくさんの努力を活かしたり、だいなしにしたりするんですね。さっきもお話ししたように、３学期は、「１月は行く月」「２月は逃げる月」「３月は去る月」。油断しているとあっという間に終わってしまいます。
　皆さんの一年はどんな１年でしたか。
　これまで、自分でも努力し、友達や家族、先生など、たくさんの人と一緒に１年間がんばってきましたね。
　そして、最後の仕上げに、どんな目を入れて、どんな１年にしましょうか。
　残りはわずか、でもまだまだ油断できません。１年間を台無しにしてしまうか。とてもよい１年としてまとめるのか。
　さてさて、桃五の皆さんは、最後にいったいどんな目を入れるのでしょうか。